

2026 年度 仙台青葉学院大学 入学試験問題

小論文

受験番号	氏名
------	----

以下の文章を読んで、問 1～2 に答えなさい。

タイトル：インフォームド・コンセントと患者の自己決定

現代の医療において、インフォームド・コンセントは欠かせない概念である。インフォームド・コンセントとは、患者が自らの治療方針を主体的に決定できるよう、医療者が十分な情報を提供し、患者が理解・納得したうえで同意する過程を指す。これは「説明と同意」と訳されることもあるが、単なる形式的な同意ではなく、「患者の自己決定を支える」プロセスであることが本質である。

日本においてインフォームド・コンセントが広く浸透したのは 1990 年代以降である。それ以前は、医師が病名や予後を伏せることも少なくなく、「医師が最も良いと考える治療を選択する」ことが一般的であった。しかし、患者の権利意識が高まり、医療の透明性が求められるようになるにつれて、患者に情報を開示し、その意思を尊重する姿勢が重視されるようになった。この変化は、医療者と患者の関係性を「支配と従属」から「対話と協働」へと移行させたとも言える。

もっとも、実際の医療現場ではインフォームド・コンセントが十分に機能しているとは言いがたい。一つには、患者や家族が医学的な専門用語を理解することが難しいという問題がある。医療者が説明しても、患者は複雑な治療法の違いや副作用の可能性を正確に把握できず、最終的に「先生にお任せします」となることも多い。また、患者が高齢で認知機能（記憶力や注意力、判断力など）が低下していたり、重篤な状態で意思表示が困難であったりする場合もある。このようなケースでは、家族が代わりに判断することが多いが、必ずしも本人の希望と一致するとは限らない。

さらに、医療者自身の姿勢にも課題がある。医療者は専門知識を持つがゆえに、自らが適切と考える治療法を強調してしまい、患者の選択を誘導してしまうことがある。「リスクを強調するか」「成功率を強調するか」といった説明の仕方一つで、患者の選択は大きく変わり得る。このように、インフォームド・コンセントは「情報提供」と「意思尊重」の両立が求められるが、そのバランスを取ることは容易ではない。

看護師やリハビリ専門職もまた、インフォームド・コンセントの過程において重要な役割を担う。彼らは患者の身近な存在として、日常的なコミュニケーションを通じて患者の価値観や生活背景を理解することができる。たとえば、末期がんの患者が「自宅で家族と過ごす

こと」を強く望んでいる場合、治療の延命効果よりも生活の質を優先する選択を支援することが求められるかもしれない。つまり、医療者の役割は、患者に情報を提示することだけではなく、患者の「生き方」を尊重した自己決定を支えることにある。

インフォームド・コンセントは形式的な手続きにとどまらず、患者の尊厳を守るための本質的な営みである。医療の専門性と、患者の意思との間に横たわる溝をどう埋めるのか。その答えを探ることこそ、医療者に求められる課題である。

問1. 本文の内容を 200 字以内に要約しなさい。

問2. あなたの考える「医療現場における望ましい自己決定支援のあり方」について、600 字以内で述べなさい。